

働こう障害者も 働けるんだオレたちも

こぶしだより

1999年

4月20日発行

発行

—こぶしの会—

宇都宮市柳田町1401

TEL 028-662-1911



朝の散歩風景



朝の散歩は仲間達にとって楽しみの1つでもあります。

心も体もリフレッシュ! さあ、今日も1日頑張るぞ!!

左から星野 健さん、阿部 仁美さん、

新田 忠弘さん、福田 寧子さん

こぶしでは今年度から、毎週水曜日午前中を使って、陶芸の取り組みを始めました。生活全般に意欲や意志の表示が弱そうに思える仲間、一日ずつと作業はちよつと難しそうな仲間達を対象としました。

もちろんどうしても『やりたい』という好奇心旺盛な仲間も数人加わりました。指導は、ご近所にお住まいで陶芸をやつてらっしゃる方が、名乗りを上げてくださいました。

大きな粘土の固まりを前に、仲間達がどう向き合うのかドキドキの初日でした。ただ、ペタペタ感触を楽しんでいる様子の仲間、指先でチョンチョンつまむ仲間、砂遊びの要領で団子作りに精を出す仲間と、思い思いに向かい始めました。

でもそんな中、全く手を出さず、じつと椅子に座り続ける仲間もいました。そして三回、四回と回を重ねていくうちに、指導の大橋さんの援助を受け、『お皿』『花瓶』『灰皿』も出来てきました。でもやつぱり座り続ける仲間も……
『これは無理だったかな』と思つてよく見ているとその仲間達は、「粘土があるよ」の声かけで、自分から車椅子を動かし会場

●どんなに障害が重くとも

豊かな生活を築くことを

目指して取り組み●

へ向かつていき、その表情はニコニコと楽しそうなのです。もう一人の仲間は、じつと座りながらも視線は、創作活動？に精を出す仲間の動きに向けられていたのです。こうして、しっかりと参加しているのだなあと分かつたのです。ひとりひとり、度合いや形が違つても、受け止め参加している事を改めて認識することが出来ました。障害の重さ故に、なかなか思いや意志を伝えられずにいる仲間達、そんな仲間達に、

作業所で一番身近な存在としての職員が、心に寄り添い、気持ちや思いの動きをしっかりと受け止めていくことが、まず一番に求められるのではないかと思います。

けやき作業所でのデイサービスが開始して半年余り。さらに重度の、そして重複の仲間達との取り組みも緒に付いたばかりです。

今までの実践を積み重ねつつ、「どんなに障害が重くても、人間として豊かな生活を築くことを目指す」ため、取り組んでいきたいと思えます。



みんなが楽しみにしている給食の時間

今日のメニューは・・・

(けやき作業所食堂)

九八年度

今年一年を

振り返って

こぶし・けやき

自由で豊かな生活を

創り出す活動を

(今後のこぶしの

取り組みの展開)

こぶし作業所

平成十一年四月一日から、「精神薄弱者」が「知的障害者」と改める法律が適用されることとなった。このことは単に養護の改正だけでなく、知的障害を持つ人達の生存権の保障、自己決定の尊重等を実現する契機になると思われる。

こぶし作業所が二十年前の役立趣意に明確した理念もこのような生存権・労働権の保障にあつたわけです。今後もこの先見性のもとにますます利用者の自己決定の力を援助し、生活の幅・豊かさを拡げる取り組みを進めたいと思っております。

平成十年度には芳賀分場が独立し新たに

デイサービスセンターが役立され法人全体の力量が向上してきました。

こぶしの利用者の人間的発達、自己実現への取り組みは、個々の場合、その歩みがゆっくりしているため、ややもすれば長期的な発達支援の観点が薄れ、その日その日の日課の消化が主な課題になつてしまうことも多いのですが、職員、保護者が問題意識を持ち障害に起因する緒制限を一つ一つ解き放ち自由で豊かな生活を保障する緒取り組みを丁寧実践していくことが大切です。

そのため長期的な展望とそこから導き出される当面の毎日のねばり強く弛まない活動を生み出していきたいと思っております。

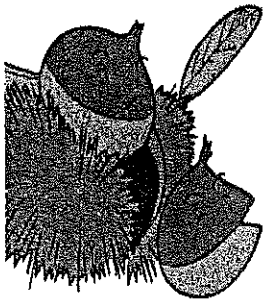
一九九八年のけやき作業

所をふりかえって

けやき作業所

けやき作業所の一年をふりかえると、思ひ出すことはけやき作業所及びけやき作業所デイサービスのセンターの開所とそれへ向けた活動です。

その中でも大変だったのはな



んといつても資金活動の一言で、最後まで気が抜けなかつた取り組みでした。

お金は社会活動が成り立つ土台であり、現在の社会ではお金ぬきにはいかなる理想も空論となつてしまいます。そしてつぱにけやき作業所を建設しました。

しかし、もう一つの側面として、お金には人々の働いた汗の結晶という価値も含まれているはずで。

こうした意味で、新しいけやき作業所とデイサービスセンターは障害者問題に関心のある多くの方々の良心の結晶だと言つて過言ではないと思ひます。そして、こぶしの会がまた一つ、社会的信頼を築き上げたと言えるのではないだろうか。改めてこぶし・けやきに関係する方々に尊敬の拍手を送りたいと思ひます。

この点で、けやき作業所保護者会やけやき作業所後援会は芳賀地域にけやき作業所を広げていった核です。また、職員も少ない人数で次から次へと行事をこなしながらの仕事はまさに汗と涙の入り交じる1年間だったと思ひます。私たちにとつてこれらの経験は、こぶし作業所を築いてきた諸先輩の方々の苦勞を少しでもかいま見ることができたというすばらしい財産として、今、ふりかえつてみると感じられるようになりました。

二つめは、入所者募集の地域回りが特筆

されます。

「けやき作業所とデイサービスセンターの入所者募集という、いわばどうしても避けては通れない仕事として地域回りが求められました。これを地域の障害者実態の調査と積極的に捉え、特別の配慮と方法で取り組みました。地域回りで分かっていたことは、開所前から数字では知っていた二、三百数十人という在宅知的障害者の実態の一角と、さらに深刻な精神障害者の存在でした。

また、地域回りでも大きな力を発揮したのは後援会の役員や保護者会でした。施設運営は、地域の障害者家族の実態を反映したものでなくてはならず、また、後援会を中心とした後援会の支えのもとでなくてはすまないと実感した取り組みでした。

最後に、通所の仲間に対する実践です。若い職員と、どちらかというところの経験者の少ない中堅職員。八月からは新たに通所した仲間たち。能力、障害の程度も様々で、新しい環境の中での生活という混乱の中で、開所して八カ月。なんとか無事に過ごせているのは職員集団の仲間たちに對する「やさしさ」と、七時、八時まで作業所の明かりを消さない彼等の情熱に支えられているからだと思えます。

予想を上回るパンの販売と人気、廃油石けんもスタートです。デイサービスセンターを利用して仲間も「けやきに來てか

おちつきました。」と評価されています。けやき作業所とデイサービスセンターはまだまだ語るほどの実践はつくり得ていませんし、沢山の矛盾も抱えています。しかし、トライするからこそ問題や課題もでてくるのだと自らを励ましつつ、元気に自分たちの足で歩き始ようとしていることをお伝えし報告にかえたいと思えます。



けやき作業所開所式・祝賀会 98年8月

くさんの方々がお祝いにかけてくれました。

会員の愉快な健闘

愛護第五回施設利用者

交流ボウリング大会

去る二月二十三日(火)、愛護協会主催の第五回施設利用者交流ボウリング大会に、こぶしの仲間六名が参加しました。

毎年栃木市で開かれていたこの大会、今年には参加希望者が多く、宇都宮の第二トールボールに会場を移し行われました。

毎年同じ仲間にならないようにメンバーを選出、今回ノーガーターのレイトンがあるので参加しやすい中身に、障害の重い仲間でも充分楽しむ事が出来ました。

ボールの穴に指をきちんと入れて投げ、狙いを定めて見事スベアをとる人、早く投げたくて順番を待ちきれない人、積極的にボールを手にし笑顔を見せる人、投げる度に感想を言いつつ楽しそうな人、そして、なんと途中でボールを止めてしまふ人など、普段では見られない様子がたくさんあり、一ゲームでは物足りない程夢中で楽しみました。賞品を手にした仲間達もいて、また来年が待ち遠しい一日でした。



家族旅行では紅葉の那須を満喫してきました！！

こぶし・けやき 98年10月 写真はけやき

第一八回こぶしまつり

盛大に開かれる！！

第一八回こぶしまつりが三月七日（日）に行われました。

今回は地域との関わりを深め、また、昨年の秋から数回に渡り平石北小との交流もあり今までにない内容となりました。

（天気のはうは・・・）

会場は平石北小体育館と校庭を予定していましたが、当日はあいにくの雨となり、体育館とその周辺を使い、取り組みました。

内容の目玉としては『仲間のステージ』と『どんぐりの家』、そして北小の児童会と話し合つて決めたゲームです。仲間のステージは「こぶしの日」と題しての劇と新曲を含めた三曲を取り組み披露しました。劇は仲間みんなが輝けるよう（必ず出番がある）工夫したものにしました。

また、地域の方々にもステージに立つてもらおうよう「地域の人のステージ」という時間帯や福引きをより多くの人にと、午前中の途中に組み入れました。

こぶしの建物を使った今までと違いスペースがあり、会場作り等、分からない事だらけでしたが、当日は二二〇名

（入場者約二〇〇名）の人で賑わい、悪天候にも関わらず、成功することが出来たのではと思います。

平石北小の校長先生をはじめとしたみなさん、雨の中ご協力下さったボランティアのみなさん、ステージを盛り上げてくれた地域の方々深く感謝するとともに、今後のこぶしまつりが新しい歴史をつくる、そんな可能性を見つけている事が出来た一日でした。

地域のみなさん、また来年楽しい企画を用意してお待ちしております。

♥桜庭さん六年間

お疲れ様でした♥

六年間努めたこぶしを三月で退職することとなった桜庭さんからです。

新卒で就職し、早六年。自分よりも年上の仲間がほとんどでどう接したらよいのか戸惑い、また周りはベテランの職員ばかりで自分が見えなくなること多々。仲間たちの伝えようとしている事や求めていることが分からず、涙したことも少なくありませんでした。

でも、みんなの笑顔に支えられ、躓きながらも充実した毎日を過ごしてきました。正直、こぶしを「辞める」等と考えた事



はありませんでした。今回第二子出産に加え、夫の仕事の都合で今までどおりの勤務が不可能になりました。まさか退職することになるとは思いもよらず、いまだに実感がわきませんが、今後も一後援会員として関わらせて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

六年間、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

けやき作業所開所式での桜庭さん（左から2番目）
（左から 福田 寧子さん、池田 善穂さん、斉藤宗一さん）

こぶしの視点

第3回

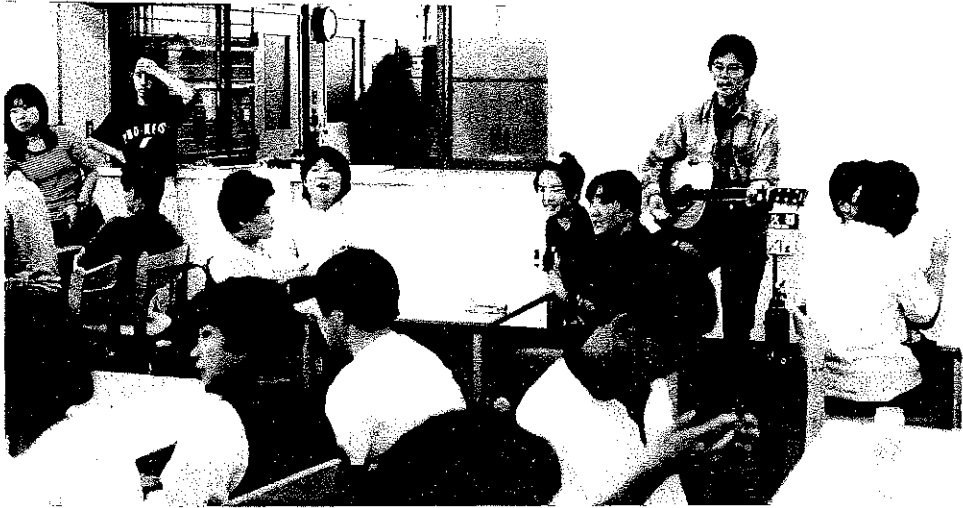
2 けやき作業所で小火事件があった。なかまがゴミもやしをされていて下草を少し焼いてしまったのだが、消防車が次から次へと駆けつけ、全町放送にも流れてしまい大騒ぎになってしまった。

すぐさま、近所の方たちはもちろんのこと、青山さんを始め後援会の方々や保護者が心配して、たくさんの方が駆けつけてくれたり電話をいただいたりした。火事騒ぎと言うこともあるが、けやき作業所も芳賀に開所して5年、地域の様々な人に支えられているのだなと感じた反面、地域の方々の信頼を無くしてしまう大きな事件を実感した。

地域の様々な人々の力が作業所に結集されなければ、作業所は発展しないし仲間集団を支えきることができない。けやき作業所の活動・運動が大きく後退することになる。

今年4月、けやき作業所のグループホーム「スズランの家」がスタートした。こぶし作業所も5月に開所する予定だ。さらには、近々生活施設の建設も予定している。これからますます地域の様々な人々の力を結集しなければならない。この事件は、深く肝に銘じたい。

コブシ/シテン



共同作業所 ゆうの家（栃木市）との交流会が開かれました。楽しいひとときを過ごしました。けやき

編集後記

今回は三月限りで編集委員会をおりることになったけやき作業所の東岡歩さんです。

皆さんにとって三月はどんな月でしょうか？

一月は行く、二月は逃げる、三月は去ると言われています。たしかに新年度への引継で落ち着かない時もあります。しかし、三月はなぜか他の月と違う。何だか気分が楽しくなってくるのです。

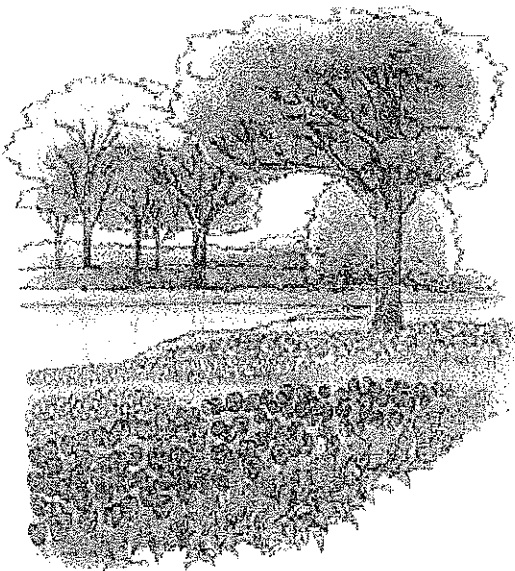
三月になると早起きも苦にならなくなってくるのです。

三月は新しい希望の見える月とも言えます。仲間たちにとっても、四月から新しい仲間を迎えるにあたっては皆いろいろな思いがあります。

今までは養護学校の実習生として迎えられていた若い人も、四月からはこぶし・けやきの「仲間」として通ってきます。「一人前」として認められる反面、「働くこと」とはどういうことなの

か。」ということとで考える事も多くなるでしょう。仲間同士のぶつかりあいも多くなりそうですが・・・
また、それがよい刺激にもなりうるのです。

こぶし・けやき共にリフレッシュした気分を四月を迎えたいものです。それと同時に忙しくなると忘れがちになる「初心」を頭の端にでも置きながら仕事を Usage と決心しているところです。



共同作業所全国連絡会
第22次国会請願署名・募金活動
全国キャンペーン
目標を大幅に越え達成！！

<署名・募金については>
共作連とちぎ事務局
(けやき作業所内028-687-1040)
あるいは
こぶし作業所028-662-1911
までお願いします。

小規模作業所問題の解決
新世紀を迎える前に
署名と募金にご協力ありがとうございます
ございました！！

聞こえますか
5000ヶ所の叫び！

★こぶしだより編集委員会からのお知らせ★

◎ご意見・ご感想がありましたらこぶし・けやきまでお願い
します。

◎特集してほしい記事があればお知らせ下さい。

社会福祉法人 こぶしの会

法人事務所・こぶし作業所

〒321-0902

栃木県宇都宮市柳田町1401

☎ 028-662-1911

FAX 028-662-1912

けやき作業所・デイサービスセンター

〒321-3304

栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244

☎ 028-687-1040

FAX 028-677-5789